

## ロイロノートで数図ブロックを使おう！

【内容】 数図ブロックを使ったたし算やひき算

【使用アプリ】 ロイロノート

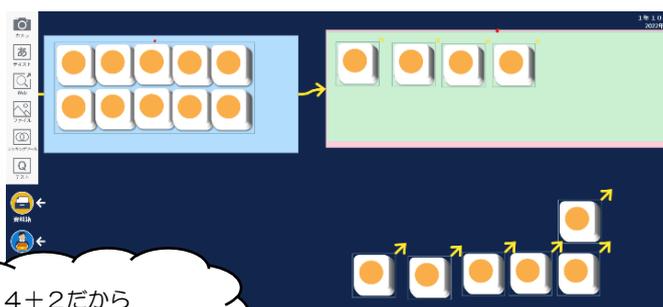
【事例紹介】

1年算数科「10よりおおきかず」において、算数ボックスにある数図ブロックと同じデザインの数図ブロックをパワーポイントで作成し、ロイロノートで児童が操作できるようにした。

「10よりおおきかず」の計算では、常に「10とあといくつ」という考え方で計算の仕方を見付けて答えを求めるため、10のブロックは固定して離れないようにしておいた。練習問題の $14+2$ の計算では、10と「 $4+2$ 」になることを確認し、児童が1位数のブロックを置くカードの上で、数図ブロック4個と2個を合わせるように操作して、計算を行った。



14+2だから  
4に2をたそう。



ロイロノートで数図ブロックを簡単に操作して考えることができるので、単元末には、念頭操作で早く計算できた児童が、残りの時間でロイロノート上の数図ブロックを使って計算の確認をしていた。

【終わりに】

うまく操作できるか不安だったが、児童はすぐに数図ブロックを操作することに慣れた。少し編集すると、同じように「3つのかずのけいさん」やたしざん(2)、ひきざん(2)でも使える。週末には、クロームブックを持ち帰るので、引き続き家でも使用できる教材を考えていきたい。



☆教育委員会主幹講師☆ 本単元の指導に当たっては、形式的な数字の読み書きや計算練習に陥ることなく、具体物の数を数えたり、半具体物を用いて数を表現したりする活動を通して、数の構成を体験的にとらえることが重要です。児童に数を速く正しく数える必然性を持たせるために「どうすれば速く正確に数を数えることができるか」を考えさせる方法として、今回のように「10のまとまり」を作ることで「正しい数が一目で分かる」というまとまりを作る良さに気付かせることができます。学習指導要領では、算数と日常生活との関連についての理解を深めることが重視されていますが、実際には常に具体物を操作することは難しいことから、今回のように半具体物(数図ブロック)の操作による表現活動を通して、数の意味や構成について段階を追って理解を深めることは非常に効果的です。今回も実践されていると思いますが、児童が自分の考えを数図ブロックを操作しながら説明する活動も取り入れると、人を意識した分かりやすい説明をする力を付けることにもつながり、さらに、聞く側には、自分の考えとの共通点や相違点、疑問点を考えながら聞くことで、思考を深めさせるとともに、友達の意見を大切にしながら学び合おうとする態度を育てることができると思います。